

外部評価を終えて

2025年10月16日

第五期外部評価委員：辻 洋、内藤 能、西田 昌司

2024年度における大学全体の評価活動と自己点検・評価プロセスの実効性等を拝見いたしました。各外部評価委員による個別評価結果は活動計画評価報告書（EXCEL表）に記載しております。

各組織の自己点検・評価活動では、A表の多くで年度計画項目ごとに中期計画との関係が記載され、自己評価委員会・大学企画評価会議による包括的な点検により、昨年度より精度の高い内部質保証がなされています。評価システムについても独自のものを新たに開発され、外部委員の評価の視点を自己点検の視点から明確に分けるように改善されています。内部質保証体制図も整備され、構成員の皆様にとって評価活動の必要性への理解が進んでいると推察できます。さらに外部委員が点検評価する項目についても精査されていることを確認いたしました。

一方、外部の視点からは次のような改善点がありうるのではないかと考えます。貴学の特徴・特色を出すように学内でご議論いただければ幸いです。

1. 各部署の計画について中期目標・計画案との関係（必要性）の有無が記載されていますが、逆に中期目標から見て、各目標がどの部署でどのような計画として展開されているか一覧表にまとめてはいかがでしょうか。これにより、過不足（十分性）を包括的に確認できると考えます。（すでにされている場合、それを資料として追加していただきたい）
2. 各部署の計画が、貴学の強みをさらに伸ばすものか、弱みを克服するものかの記号（例えば、SとW）を付与して関係者で方向性やバランスを共有してみてもはいかがでしょうか？さらには、貴学を取り巻く環境に照らして、チャンスか脅威を示す記号（例えば、OとT）を付与すれば現状の相互理解が深まるのではないかと考えます。
3. 計画項目数が多いため、ミクロなPDCAに意識が向き、中期目標・計画に向けて、着実に活動・評価・改善ができているのかが見えづらくなっています。構成員が全学の現状を共有しやすいように可視化する工夫をされてはいかがでしょうか？例えば、
（ア）全体的な組織構築として「統括的な大学運営主体」、「学部・学科・センター等の専門教育部署」、「入学センター、教務委員会、学生生活センター」、「その他の委員会」、「総務・施設・財務等の管理部門」の相互関係を再確認することで、さらに有効なPDCAが可能になると思われます。
（イ）特に「入学センター、教務委員会、学生生活センター」と「その他の委員会」については、包含関係を明らかにすることと「全学の中期目標のどの項目」と強く関連しているかを明示することで、評価が効率的になると思われます。

- (ウ) 中期目標と強く関連している地域連携推進委員会、国際化推進委員会の位置づけ、および国際化推進委員会と国際交流センター委員会の関係を第三者にもわかりやすくしていただければ学内の教職員にとっても協力を得やすくなると思われます。
- (エ) アウトリーチ委員会、戦略的大学連携委員会も中期目標の地域連携、国際化との関係を踏まえた点検を行っているのだと思いますが、音楽学部内の委員会に見受けられる部分もあり、全学的な位置付けの明確化が望まれます。

4. 活動全般についても以下の点を申し添えます。

- (ア) 専門性の高い学部、学科、専攻を設置することにより、志願者の確保に努められています。新たな教学部署の教育課程・教員組織の完成に注力するとともに、従来の教育課程に属する学生への配慮（点検）も留意ください。
- (イ) キリスト教主義、国際理解、リベラルアーツを特色として 150 周年を迎える女子大学として、基本理念が希薄にならないように全学横断的なカリキュラムやプログラムの再整備と学生・保護者・受験生への周知がなされていることを確認（点検）ください。

5. 具体的な提案として次をご検討いただければ幸いです。

- (ア) 英文学科から国際学部への改組の機を捉えて、女子高校生対象の広報活動を更に強化されることを期待します。中期目標にも「受験生に分かりやすい（継続的な）本学の情報の提供・・・」と記載されている通り、ターゲットを絞っての情報提供とともに、より広く知ってもらえるよう、そして志願者増につながるような、広い広報活動の展開を期待します。
- (イ) 地域連携・国際連携活動推進に関して、現在行われている小学校外国語活動、映画祭字幕プロジェクトなどに加えて、より多くの学生に参加機会を提供するため、新たなプロジェクトの導入をご検討ください。例えば NPO 団体や自治体などの国際交流行事や文化スポーツ行事などでの語学ボランティア活動など新しいプログラムの創設も視野に入れていただければと思います。

以上、2025 年度の中期目標完成、次期中期目標・計画の策定、第 4 期認証評価に向けて、アウトプット、アウトカムの設定とデータに基づいたさらに効果的な PDCA が期待します。創立 150 周年という節目において、神戸女学院大学の学院理念を共有した諸活動のさらなる発展を心より祈念します。

以上